

沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

石原 昌家

(83)

1999年の新平和祈念資料館問題で知事会見／三資料館問題で県は、大田前県政の下で発足した監修委員を入れ替え、資料館展示内容を全面的に見直すことも考えていたようだ(4月21日付の本連載第81回で紹介)。しかし、2000年沖縄サミット開催を目前にしてか、県は「国家に対する認識が全く異なる」「三役発言」はすの監修委員に「引き続きお願いしたい」ということになった。そのことについて、新聞報道でしか、監修委員は知ることできなかった。

琉球新報の10月14日夕刊の一面トップ記事では「新で具体的な返答は難しい」

「日本軍の残虐性を薄める形での変更案についても「歴史観がいろいろ違つた」

監修委の不信解けず

新協会の「変更理由」で県批判

八重山平和祈念館の展示変更問題で、県が新たに設けた協議会の初会合について報じる。1999年10月27日付琉球新報朝刊の社会面

と述べ、従来の説明の範囲を超えない回答にとどまった。県庁内部での変更作業について、記者会見ではこれまで生じた多くの不信感が払拭されぬまま疑問を残す形となった

相次ぐ批判

この知事会見に対する野党県議や市民団体などから

平和祈念資料館問題 ①⑥

知事会見も募る不信感

展示変更の責任、明確にせず

「紙面に載っている。以下に語りつた」と始まり、このように記事が続いた。しかし、内容は前県政との平和観の違いやマスコミ報道への反論に終始し、「日本軍の加害、残虐さを薄める方向」の変更についての意見は最後まで触れず、足早に会見場を去った。県議や野党議員団が知事に展示改ざんの謝罪と三

「わだかまりが残った」と示し、運営の最終的な責任は知事にあるとした部分には微妙な表現だが、開館後は展示変更もあるとの示唆も受け取れる」と懸念を示した。私は、すでに第二の資料館改ざん事件が起きるであろうことを予感していたようだ。その記事の最後に次のコメントがある。「星雅彦氏は「知事は『遺」

戦争マラリア問題

一方、八重山の戦争マラリア資料館の展示改ざん問題も残っていた。私は、戦争マラリア資料館建設にもかかわらずだったので、その展示内容の改ざんにも気をめぐらす立場だった。当日の同じ紙面に「八重山の監修委員／問題の本質認識がない」という見出しで、以下の記事に問題が残されていることが示されている。

作業を「検討過程」と強調した点にも「実際に日本兵の人形(銃を持たない)は作られている。事後承認させるつもりだったのか」と不満を見せた。「知事コメントからは、国連による集団安全保障体制による平和という知事の平和観が分かる。そういう認識のもとに『見え消し』(展示改ざん)を作ったのか」。こう話したのは石原昌家氏。(知事)コメント

「平和祈念資料館について」として発表された十、四日の知事コメントは、展示内容を変更して開館した八重山平和祈念館への言及はなく、八重山地元の関係者からは再び怒りの声が上がっている。元監修委員の田底重雄・八重山戦争マラリア遺族会会長代行は、問題の本質を知事は認識して

監修委員の懸念

「私たち監修委員の知事コメントに対する批判も、同日夕刊の社会面、第2社会面トップでは「批判遺憾に思う。明確な謝罪避けたい」という大見出しの下、本文では「コメントできない」を繰り返してき

「歴史観がいろいろ違つた」

「日本軍の残虐性を薄める形での変更案についても「歴史観がいろいろ違つた」

作業を「検討過程」と強調した点にも「実際に日本兵の人形(銃を持たない)は作られている。事後承認させるつもりだったのか」と不満を見せた。

「平和祈念資料館について」として発表された十、四日の知事コメントは、展示内容を変更して開館した八重山平和祈念館への言及はなく、八重山地元の関係者からは再び怒りの声が上がっている。

「平和祈念資料館について」として発表された十、四日の知事コメントは、展示内容を変更して開館した八重山平和祈念館への言及はなく、八重山地元の関係者からは再び怒りの声が上がっている。

作業を「検討過程」と強調した点にも「実際に日本兵の人形(銃を持たない)は作られている。事後承認させるつもりだったのか」と不満を見せた。

「平和祈念資料館について」として発表された十、四日の知事コメントは、展示内容を変更して開館した八重山平和祈念館への言及はなく、八重山地元の関係者からは再び怒りの声が上がっている。

「平和祈念資料館について」として発表された十、四日の知事コメントは、展示内容を変更して開館した八重山平和祈念館への言及はなく、八重山地元の関係者からは再び怒りの声が上がっている。